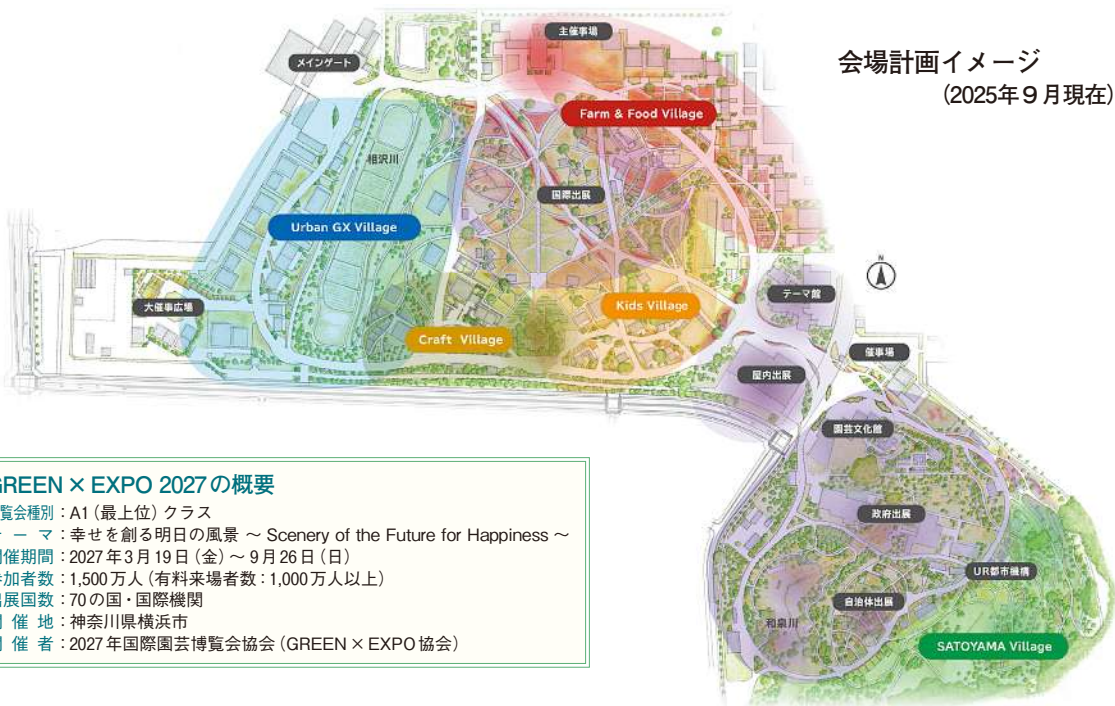




GREEN × EXPO 2027の概要

博覧会種別：A1（最上位）クラス
テーマ：幸せを創る明日の風景 ～ Scenery of the Future for Happiness ～
開催期間：2027年3月19日（金）～9月26日（日）
参加者数：1,500万人（有料来場者数：1,000万人以上）
出展国数：70の国・国際機関
開催地：神奈川県横浜市
開催者：2027年国際園芸博覧会協会（GREEN × EXPO 協会）

企業の多様な支援が博覧会を支える

本博覧会の開催にあたり、多くの皆さまからのお力添えが必要不可欠であり、民間企業からの「寄付」「協賛」「人材支援」を広く募っている。これまでも会場建設費の確保のため経団連会員企業・団体には寄付について多大な協力を賜り、改めて御礼申し上げるとともに、引き続きのご理解・支援をお願いしたい。協賛については、本博覧会の価値を共創・発信するため、会場内の実装等に向けて企業からの提案型で画期的な環境技術や次世代につながる魅力的な技術、サービスを募っている。また、準備・開催運営を担う人材派遣もあわせてお願いしたい。当協会への出向により、国家プロジェクトへの参画を通じた貴重な知見獲得や、行政・他業種の企業等との人脈構築をしていただくことができる。

機運醸成に向けて

開催まで1年半を切る中、GREEN × EXPO 2027の認知度をさらに向上させるため、様々な機運醸成活動に取り組んでいる。本年5月より公式アンバサダーの芦田愛菜さんとともに応援の輪を広げる新プロジェクト「Blooming RING Action」を発足させ、腕につけるBlooming RINGの配布・撮影イベントを随時実施している。7月にはGREEN × EXPO 2027特別仕様の自動車ナンバープレートの交付が始まった。8月には公式ライセンス商品の販売も開始し、公式マスコットキャラクター「トゥンクトゥン」のグッズをはじめ好評を博している。公式マスコット「トゥンクトゥン」の積極的な展開を含め、多方面に向けた認知度向上のための広報活動を強化していく。今後は、前売り券の販売を予定しており、1都3県初の万博として、大阪・関西万博の熱量・成果を引き継ぎながら着実に準備を進めていく。引き続き多くの企業の参加、協力を広くお願いし上げる。



公式マスコットキャラクター「トゥンクトゥン」

GREEN × EXPO 2027 開幕500日前を迎えて



河村正人

こうむら まさと

2027年国際園芸博覧会協会（GREEN × EXPO 協会）事務総長

はじめに、2025年8月に貴会で本博覧会の支援・推進を目的に「2027年国際園芸博覧会特別委員会」が発足した。まずは心より御礼を申し上げる。

2027年国際園芸博覧会（GREEN × EXPO 2027）は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催される国際的な博覧会である。日本では1990年の「大阪花の万博」以来、37年ぶりとなる最上位（A1）クラスの国際園芸博覧会であり、1都3県では初の万博となる。テーマは「幸せを創る

明日の風景」。植物の自然資本財としての多様な価値を再認識し、自然との共生や環境、植物のもたらす幸福感を新たな明日の風景として可視化する。2025年11月4日には開催500日前を迎え、会場計画や展示計画などの準備が加速している。ここで現時点での検討状況を一部紹介したい。

企業との共創による新たなグリーン社会を提示

会場には五つのVillageである「Urban GX」「Craft」「Farm & Food」「Kids」「SATOYAMA」を共創事業として展開し、各Villageのコンセプトに基づき、企業との共創による新たなグリーン社会を示す世界観を作り出していく。

主要施設は、「テーマ館」「園芸文化展示」「政府出展」等を予定している。テーマ館では、「すべての生命はつながっている。植物を中心に。」をコンセプトとして、最新の科学でわかってきた地球を支える命の根源である植物の真の姿を紹介する。園芸文化展示では、現代に受け継がれる数々の伝統園芸植物を季節ごとに入れ替える展示等で江戸時代に発展した日本の園芸文化を伝える。政府出展のコンセプトは「日本の自然観を再考し、未来へ進む」で、旧上瀬谷通信施設の南東部にある和泉川源流部

という重要な場所の環境を読み解き、在来植物や既存の植物等を活用する。企業・団体による出展状況について、「Village出展」では、Villageのコンセプトに賛同いただいた企業・団体による大規模出展で、現在12企業・団体と出展に向けて調整をしている。

「テーマ営業出店」は、同じく共創事業Villageにおいて、「幸せを創る明日の風景」の創出に資するエシカル消費や食育などをテーマとした独自の飲食や物販等による出店で、4企業・団体が内定している。

「花・緑出展」は、庭園や花壇、生け花や盆栽、新品種・希少種など多様な花・緑の作品等の出展で、花き園芸・造園関連企業・団体、大学、自治体など360件が内定している。自治体についてはほぼ全ての都道府県、政令市が出展する予定である。さらに国際出展では70の国、国際機関の参加を目標としており、出展勧奨を行っている。本年5月に前回のA1クラスの国際園芸博覧会を開催したカタルと初の契約調印式を実施した。さらに8月下旬に横浜市で開催されたTICA D9において多数のアフリカ諸国からの参加表明を受けるなど本年9月時点で約60カ国・機関から参加表明があり、引き続き出展勧奨に努める。